

一般研究集会（課題番号：2020K-03）

集会名：災害メモリアルアクション KOBÉ 2021

主催者名：※共催の場合

研究代表者：センター長 河田 恵昭

所属機関名：(公財)ひょうご震災記念 21 世紀研究機構人と防災未来センター

所内担当者名：山本 明紀子

開催日：令和3年1月9日（土）

開催場所：人と防災未来センター 西館 1F ガイダンスルーム

参加者数：60名（所外51名、所内9名）

・大学院生の参加状況：0名（修士 名、博士 名）（内数）

・大学院生の参加形態 []

研究及び教育への波及効果について

阪神・淡路大震災を経験していない学生が本研究集会に参加することで、震災の教訓を教え伝える立場になるための人材育成になることや、地域の防災活動参加による震災の記憶継承、未来へ続く防災・減災への貢献を期待する。

研究集会報告

(1) 目的

阪神・淡路大震災を経験していない学生が、様々な地域や学生同士の交流のなかで震災を体験し、震災から何かを受け取り何をどう伝えていくべきかを考える場とします。

学生たちは「震災」を伝えるアクションを模索するなかで、新しいことばの表現を生み出しています。いまの若者だからこそ伝わる表現とはどのようなものか、先生の「震災」を同年代に伝える舞子高校と、映像をつかって「震災」を発信する明石南高校とともに、時代とともに生まれ変わる新しい KOBÉ のことばの表現を考えます。報告会は、できるだけ会場のみinnでディスカッションできる活発な意見交換の場とします。

(2) 成果のまとめ

「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005年）、その教訓を次世代に伝える「災害メモリアル KOBÉ（2006～2015年）」に続く発展的な取組として、2016年からは「災害メモリアルアクション KOBÉ」の取組を実施しています。「災害メモリアルアクション KOBÉ」は、大人だった世代が少なくなるさらに次の10年を見据えて、今後使える方法やしくみを試行錯誤し、発見しつくる10年として位置づけています。今回は、当時まだ生まれていない・経験していない世代間においてどうやって震災を語り継いでいけばいいか、様々なアプローチをする学生たちの報告の場となりました。また、新型コロナウイルス感染症の蔓延する中での実施となったため、オンラインを併用した形態での開催でしたので、緊急事態宣言の直前にもかかわらず、遠方の学校も参加ができ、また様々な工夫された活動状況を相互に知り合える、学生や参加者にとって興味深い会とすることができました。

(3) プログラム

10:00 開会挨拶 災害メモリアルアクション KOBÉ 企画委員会委員長 人と防災未来センター震災資料研究主幹
京都大学防災研究所教授 牧 紀男

10:05 活動発表 兵庫県立舞子高等学校
兵庫県立明石南高等学校
滋賀県立彦根東高等学校
国立明石工業高等専門学校 D-PR01135^o（明石高専防災団）地域連携チーム・開発チーム
神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ

関西大学 社会安全学部 奥村研究室

兵庫県立大学防災リーダープログラムチーム

12:00 パネルディスカッション「KOBEのことば～新しい表現」

コーディネーター 京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 助教 中野 元太

人と防災未来センター 主任研究員 高原 耕平

グラフィックアシレーション 滋賀県立大学 環境科学部4年 多田 裕亮

パネリスト 兵庫県立大学舞子高等学校 生徒2名及び教員

兵庫県立大学明石南高等学校 生徒2名及び教員

12:55 講評・閉会挨拶 災害メモリアルアクション KOBE 企画委員会顧問

人と防災未来センター長 河田 恵昭

(4)研究成果の公表

報告会で発表された内容等を報告書にまとめ、関係者に配付するとともに、人と防災未来センターHPに掲載。